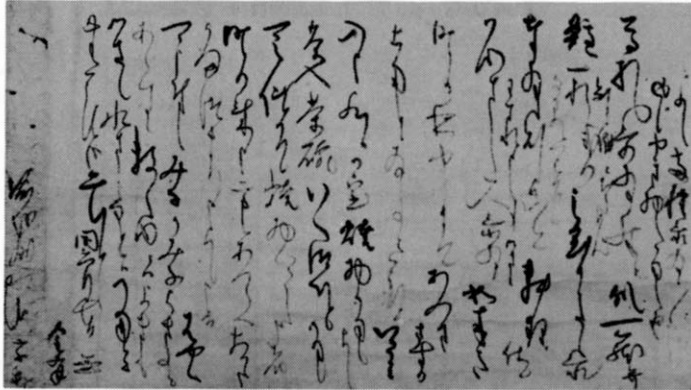


金森宗和の手紙

— 第3回雙柏文庫展より —



宗和（1581～1656）は飛騨高山城主金森可重^{あかりしげ}の長男、本名を重近といいましたが、大坂冬の陣のとき事情があつて勘当され、弟に家督を譲りました。上洛して大徳寺伝双紹印に師事して号を宗和と称しました。宗和はすぐれた茶人として知られ、近衛信尋、一条兼暹など公卿たちに茶を教えました。大徳寺真珠庵の庭玉軒、鹿苑寺の夕佳亭などは宗和好の茶室として知られています。宗和は公卿たちとの交際が多かったので、優雅な好みをもち姫宗和と伝えられています。京焼色絵の名工野々村仁清の作品を指導したと伝えられていますが、次の宗和の手紙には、その事情や、当時の御室焼の窯の繁昌ぶりなどが知られる貴重な資料であります。

(釈文)

尚々兩種忝存候く
返々やき物之御用之通
尊札忝存候 殊ニ瓜一籠並
別紙ニちうもん
鱸一折まつ被懸御意忝
なされ可被下候
奉存候 則只今料理仕候
わすれ申事御さ候
御心さし一入忝存候 如来意
昨日夜中にてあつささすが
土用と存事ニ御座候 いたミ
入申候 然ハ御室焼物御用候よし
茶入 茶碗いくつほど御用候
可被仰下候 焼物いたし申者
昨日来申方ニあつらへ大かた
かまつまり申よし申候間 はやく
可申候 みなごみなき事ニ
あらず候 数之内ニハよきも
御さ候 水さしなどハ御用は、
無御座候哉 恐惶謹言
閏六月七日 (花押)
堀越州様 貴報 宗和 金森

季刊 美のたより No.39

昭和52年 5月1日

発行 大和文華館